

## はじめに

昭和44年度に金沢大学に保健管理センターの設置が認められた。もちろん保健管理の仕事は、センター設置の以前からも、学生部の仕事として、保健室や学生相談室を通して行なわれてきた。

しかししだいに学生数も増加し、その上社会的な影響で多様化してきた学生の身心の管理には、時代に適した組織とスタッフが必要となってきた。センターの設置のゆえんもそこにある。しかし出来あがったセンターは、人員・経費・設備、どの面から見ても十分な状態からは程遠い。このような不十分な状況の下で出発したセンターの成長は、将来の問題としてこの1年間の結果を報告し参考に供したいと思う。

これまで国立大学において保健管理センターの設置された大学はかなりの数になるが、その態様はずいぶんと差があるように思われる。たとえば管理だけでなく診療も含めるところ、学生相談は別の組織で行なうところ等々。金沢大学においては保健管理センターは対象を学生にかぎり、身心の健康上のいわば交通整理のみを目的とし、疾病治療の行為は行なわない、という方針である。人員の面からの制約もありその点は医学部付属病院なり、その他の専門機関に任かせる事になっている。ただ学生相談室では、神経科・精神科とまではいかない前段階の程度の学生を対象とした臨床心理学的な立場からの指導を行なう事は、保健管理センターの重要な仕事として含めているし、効果をあげている。

昭和45年7月

金沢大学保健管理センター

所長代理 丸 芳 十 郎